

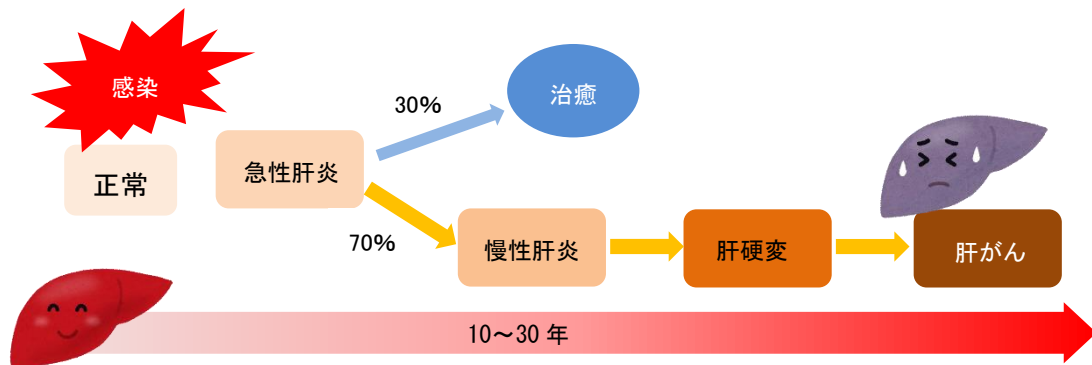
# 薬の伝言板～C型肝炎～



No. 234 2017年5月  
丸子中央病院 薬局

## C型肝炎とは

C型肝炎は、C型肝炎ウイルスに感染することにより肝臓の炎症が続き細胞が壊れて肝臓の働きが悪くなる病気のことです。初期にはほとんど症状はなく、軽い肝炎のまま経過するケースもありますが、治療しないで放置していると、約7割は徐々に病気が進行し、治療しないと10～30年でその3～4割が肝硬変、更に肝がんに移行することがあります。



C型肝炎ウイルスは主に血液を介して感染します。感染者の血液が他者の血液に入ることによって感染するため、日常生活での感染はほとんどありません。現在わが国の感染者の多くは、C型肝炎ウイルスが発見される前の輸血や血液製剤、あるいは注射針の使いまわしなどで感染したものと考えられます。



**肝硬変とは**・・・長期間の炎症で肝臓の細胞が壊れ、それを修復する形で線維成分が増加し、肝臓が硬くなってしまった状態のことです。肝硬変になると手のひらが赤くなったり、黄疸が出現したり、むくみが出たり、腹水によってお腹が膨らんでくる場合があります。さらに肝がんが発症しやすくなるほか、食道静脈瘤の破裂や肝性脳症など、生命にかかわる重大な合併症も起こりやすくなります。



※**食道静脈瘤**・・・肝硬変になると肝臓に血液を運ぶ門脈の流れが悪くなり、血液は肝臓を迂回して食道の静脈を通るようになり、**こぶ**をつくり、悪化すると瘤が破裂して下血、吐血を起こします。

※**肝性脳症**・・・肝臓で処理されるべきアンモニアなどが脳に流れ、異常な行動や昏睡などの症状が起こります。



## 治療薬

C型肝炎ウイルスの増殖を抑制する[抗ウイルス療法](#)と、肝炎の悪化を防ぐ[肝庇護療法](#)の2種類があります。



### ○抗ウイルス療法

C型肝炎ウイルスの増殖を抑制して、感染の治癒を目指す治療です。以前はインターフェロンと呼ばれる注射薬が使われていましたが、最近ではインターフェロンを使わない「インターフェロンフリー治療」が主流になっています。

#### インターフェロン治療

体のウイルス防御機構を活性化させるインターフェロンを定期的に注射します。内服薬と組み合わせることもあります。

治療薬：スミフェロン・フェロン・イントロンA・ペガシス・ペグイントロン



#### インターフェロンフリー治療

C型肝炎ウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬を内服します。治療期間は3~6ヶ月間で、1種類または2種類を組み合わせます。

治療薬：グラジナ錠・ソブリアードカプセル・エレルサ錠・ソバルディ錠・ハーボニー錠・ヴィキラックス錠・レベトールカプセルなど

### ○かんひごりょうほう肝庇護療法

抗ウイルス治療が行えない場合に、肝炎の進行予防を目的として行われますが、ウイルスの増殖を抑制する効果はありません。肝機能の改善作用を持つ薬を内服、または定期的に注射します。

治療薬：ウルソ錠・強力ネオミノファーゲンシー注・グリチロン錠・小柴胡湯・リフキシマ錠・モニラックシロップ・アミノレバン・リーバクトなど

日本には150~200万人の患者さんがいると考えられていますが、自覚症状がほとんどないため感染していることに気付いていない方が少なくありません。C型肝炎は治療の難しい病気とされていましたが、最近では治療法が進歩し、早期に発見し適切な治療を受けることでウイルスの排除や肝硬変、肝がんへの進行を防ぐことができるようになってきました。

まずはC型肝炎ウイルスへの感染の有無を調べる検査を受けることが大切です。

